

平成 30 年度広島県特別支援学校教育研究事業報告

1 会員数 (1,146 名)

2 研究の目的

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、学習上又は生活上の困難を改善・克服するため、適切な指導や支援を行えるよう専門性の向上を図り、今後の特別支援教育の一層の充実を図る。

3 研究主題

幼児児童生徒を基点とする能動的で深い学びの推進

4 活動内容

(1) 教育研究大会の実施

平成 30 年 12 月 26 日 (水)

広島大学サタケメモリアルホール

ア 研究 1

研究校 4 校による教育課程別の研究及び研究発表

イ 研究 2

平成 29 年度広島県立教育センター教員長期研修生 6 名による研究成果発表

ウ ポスター発表

研究発表 1・2 の発表校以外の特別支援学校 (分校・分級・分教室を含む) によるポスター発表

エ 講演

演題 「新学習指導要領を踏まえた『主体的・対話的で深い学び』につながる授業づくり」

講師 植草学園大学 発達教育学部 発達支援教育学科

准教授 菊地 一文 氏

(2) ホームページ等による情報発信

5 研究成果

本研究会は平成 12 年度に発足し、平成 30 年度で 19 年目の活動となった。発足当時は障害種別に 5 部会に分かれて研究活動を推進していたが、平成 17 年度から各部会を統合し、研究会全体の研究主題を設定し、特別支援教育における今日的課題から研究テーマを設定し、募集に応じた研究スタッフによるグループ研究により研究活動を推進してきた。研究大会においては、平成 28 年度までは、グループ別の研究発表のほか、ポスター発表や特色ある取組について学校企画発表を行ってきた。

こうした中、平成 29 年度には特別支援教育に係る国の動向や、広島県の施策、学習指導要領改訂の趣旨等を踏まえ、研究主題や研究体制を一新した。平成 30 年度は、広島版「学びの変革」アクション・プランの全県展開の年であり、各校では「主体的な学び」を促す教育活動を推進していることから、昨年度に引き続き、研究主題を「幼児児童生徒を基点とする能動的で深い学びの推進」と設定し、教育課程別に 4 校の特別支援学校からの研究発表、他の特別支援学校によるポスター発表、さらには平成 29 年度広島県立教育センター教員長期研修生の研究報告も行い、研究成果を多くの会員と共有することで、専門性や実践力の向上を図り、本県の特別支援教育の充実・発展につなげていきたいと考えた。また、講師に植草学園大学発達教育学部 発達支援教育学科 菊地 一文准教授をお迎えし、「新学習指導要領を踏まえた『主体的・対話的で深い学び』につながる授業づくり」と題して御講演をいただいた。

このように平成 30 年度は、本研究会や教育研究大会が各校の実践や研究成果を共有する場となるとともに各校の広島版「学びの変革」アクション・プランの推進や新学習指導要領に基づき、「主体的、対話的で深い学び」に向けた更なる専門性の向上の一助となったことが成果として挙げられる。関係者並びに会員等から頂いた意見やアンケートでは、おおむね高い評価を受けることができた。

平成 30 年度広島県特別支援学校教育研究大会 報告

- 1 日 時 平成 30 年 12 月 26 日 (水) 9 : 30～16 : 30
- 2 会 場 広島大学サタケメモリアルホール
- 3 参加者 約 501 名 / 会員数 1,146 名
- 4 教育研究大会内容及びアンケート結果

(1) 研究発表 1

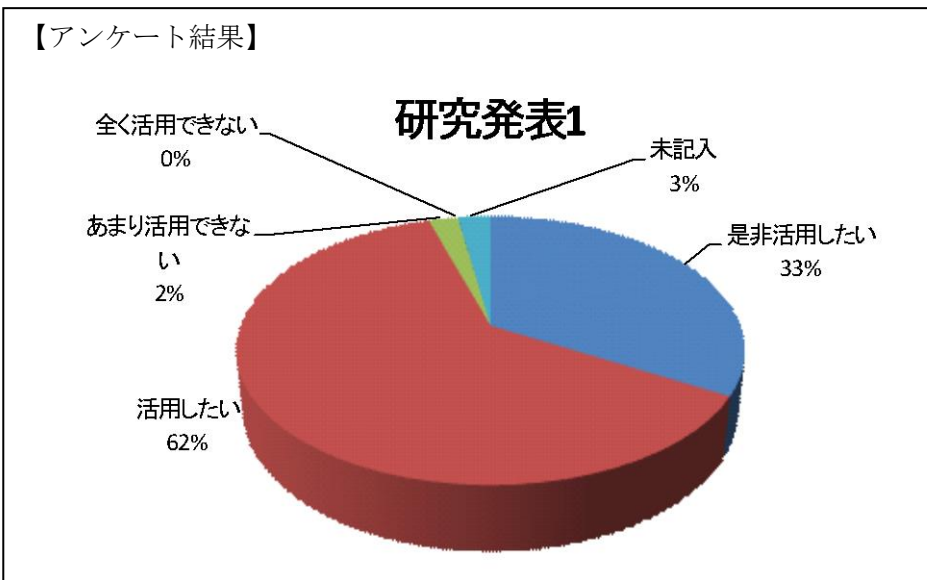
	学校名	研究テーマ
①	尾道特別支援学校	伝える力を育成するための言語活動の工夫
②	沼隈特別支援学校	チャレンジと振り返りを通して『次への意欲』を育む授業づくり ～児童生徒の『やってみよう!』『よし、やるぞ!』という姿を目指して～
③	市立広島特別支援学校	自立と社会参加を目指した「わかる」、「できる」、「かかわりあう」 日常生活における指導
④	県立広島特別支援学校	広島版「学びの変革」アクション・プランに基づく肢体不自由教育の実践



アンケート結果からは是非活用したい又は活用したいとの回答は、全体の 95%であった。

「各校の研究の経緯変化がよく分かった。」「自校の研究にその深め方を参考にしたい。」「生徒が主体の研究内容だったので活用しやすい。動画での実践例の紹介は大変分かりやすかった。」

「新学習指導要領に基づき、主体的、対話的で深い学びを実現するために各校で工夫していることがよく分かった」などの意見があった。



(2) 研究発表 2

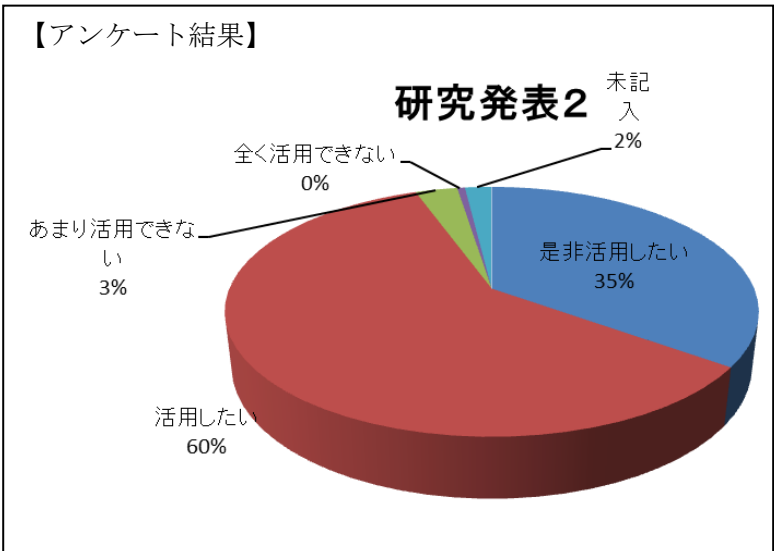
平成 30 年度広島県立教育センター教員長期研修生研究成果発表

	学校名	研究テーマ
①	広島中央特別支援学校 教諭 刺田 昭史	視覚障害と知的障害を併せ有する児童の手指機能を育てる自立活動の工夫 —知的障害の特性に対応したプログラムに基づく指導を通して—
②	尾道特別支援学校 養護教諭 澤田 恵美	知的障害等のある生徒の人間関係を築く力を育む保健指導の工夫 —ソーシャルスキルトレーニングとコーチングを取り入れた活動を通して—
③	呉南特別支援学校 養護教諭 瓜生 里江	知的障害のある生徒が主体的に健康的な行動を実践できる保健指導の工夫 —行動変容ステージモデルを活用した手洗い指導を通して—
④	県立広島特別支援学校 教諭 目崎 武史	知的障害を伴う肢体不自由のある生徒の意思表示を促す授業づくり —生徒の実態に応じたICT機器の活用を通して—
⑤	西条特別支援学校 教諭 山根 亨一	肢体不自由のある生徒の論理的に説明する力を高める数学科指導の工夫 —「要素」に分けて考えるワークシートの活用を通して—
⑥	福山北特別支援学校 教諭 大西 富幸	知的障害のある生徒がルールを守り生活に生かす力を育む生徒指導の在り方—生徒指導規程を視覚的に理解させ、自らの行動と関連付けて考えさせる指導を通して—



アンケート結果から、是非活用したい又は活用したいとの回答は、全体の 95%であった。

広島県立教育センター教員長期研修生の研究成果発表については、平成 29 年度から行っている。それまで全体で共有する機会がなかったが、この成果発表は大変良い機会となっている。「長期研修の発表者は内容が良く分かりやすかった。」「根拠となる内容、成果と課題が具体的に示されていて納得する指導内容・支援方法が多かった。」「いずれも先駆的な研究であり、とても興味深い内容であった」という肯定的な意見が多かった。また「知的障害の生徒への生徒指導等が参考になった。」「手洗い、身だしなみ等学習したことを実際の生活場面で生かしていくための手段等が参考になった。」「学習場面の中で児童生徒に付けたい力を身に付けられるような場面設定を繰り返し行いと思った。」「手洗い指導や生徒指導規定などスモールステップで段階的に指導していきたい。」など具体的な実践に役立てたいという意見もあった。このようなアンケート結果から長期研修生の発表を共有できたことは成果があった。



(3) ポスター発表

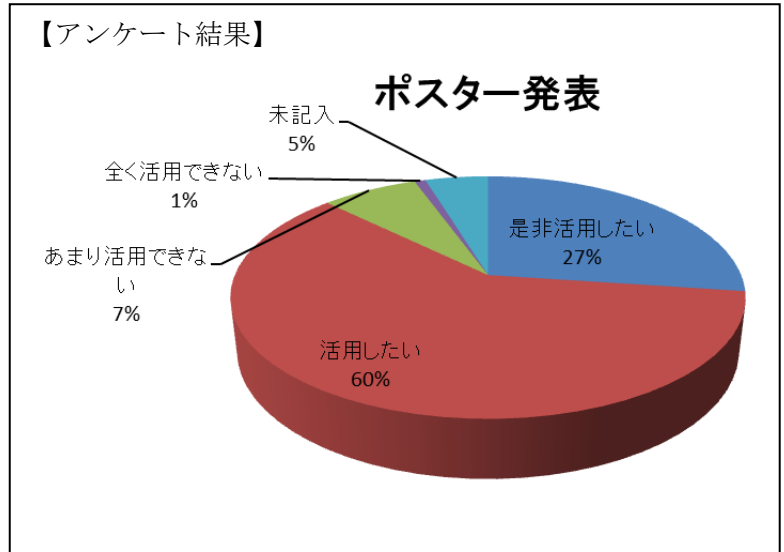
	学校名	タイトル
①	広島南特別支援学校	聴覚障害教育の実際
②	福山特別支援学校	重度・重複障害児のアセスメントに関する研究
③	広島西特別支援学校	にしとく版 学びの変革を促す 授業改善の取組
④	廿日市特別支援学校	指導略案を活用した教育課程の改善
⑤	三原特別支援学校	三原特支『付けたい力』を目指した授業づくり ～チームの強みを生かした授業研究～
⑥	呉特別支援学校	児童生徒が、自ら考え、学びたくなる授業づくり（二年度） ～ルーブリックを活用した、学習評価を通して～
⑦	呉特別支援学校 江能分級	私たちのえたじまん！～オリーブに関する江能分級の特色ある取組～
⑧	庄原特別支援学校	児童生徒が自ら考え、自ら動く授業づくり ～目標達成を意識した思考力の育成 パート2～
⑨	広島北特別支援学校	広北版「学びの変革」アクション・プランに基づく授業づくり
⑩	黒瀬特別支援学校	児童生徒一人一人の「働く」生活を目指した授業づくり —課題発見・解決学習を育む分かって動ける授業づくり—
⑪	黒瀬特別支援学校 安浦分級	「自分らしく表現できている!!」という実感が持てる授業の工夫



アンケート結果から是非活用したい又は活用したいとの回答は、全体の87%であった。

「多くの内容が把握でき参考になった。」「各校の研究の視点が分かりやすく興味深かった。」「補聴器などの体験ができ、聴覚障害の児童の実態把握につながった。」「児童生徒が作った作品等の実物を見ることができ参考になった。」「様々な評価方法や支援指導体制がある中で自分の担当している児童生徒の指導に役立てたいと思った。」など多くの意見があり、他校の研究内容や具体的な教材を提示するなどの発表から、各自の実践につながる多くのヒントを得ることができたと思われる。

研究発表②の発表時間を確保するために、昼食休憩とポスター発表を同時に行ったため、じっくりポスター発表を見たり話を聞いたりすることが難しかったことが反省点である。



(4) 全体を通して

「発表を聞くだけでなく、質問や協議ができる時間がほしい。」「ポスター発表を全て聞くことは難しいため、半分の学校が発表、半分の学校が教材教具の展示発表はどうか。」「全ての長期研修をステージでの発表と考えずに、より全体への還元性のあるもの、役立つものといった視点で選択したうえでの発表であってほしい。そうでないものについてはポスター発表をする等の対応を考えてほしい。また、ステージ発表については、研究を踏まえて、今年度の取組はどうかのことも聞きたい。」など研究大会をより良いものにしたいという意味での御意見をいただいた。

今年度は「広島版『学びの変革』アクション・プラン」全県展開の年であり、県内のすべての特別支援学校で「主体的・対話的で深い学び」や「課題発見・解決学習」をしっかりと意識した実践が行われていることを共有することができたという点で効果があったと言える。